平成5年以来約30年ぶりの大規模演習

「令和3年度陸上自衛隊演習」に参加

出発前の車両点検

隊列を組み
神町STAを出発

連隊は、9月23日(木)から10月4日(月)までの間、陸上自衛隊最大の実動訓練である「令和3年度陸上自衛隊演習」に参加した。

本訓練は、9月15日(水)から11月下旬まで陸上自衛隊のすべての部隊を対象として行われる大規模な演習となっており、陸上自衛隊の対処態勢の万全及び抑止力、対処力の強化を目的とし、連隊は出動準備訓練、機動展開等訓練を実施した。

出動準備訓練においては、有事を想定し、必要な武器、弾薬等を駐屯地の一角など、指定された場所に集積した。また、連隊が管理する物品等についての移管要領について検証した。

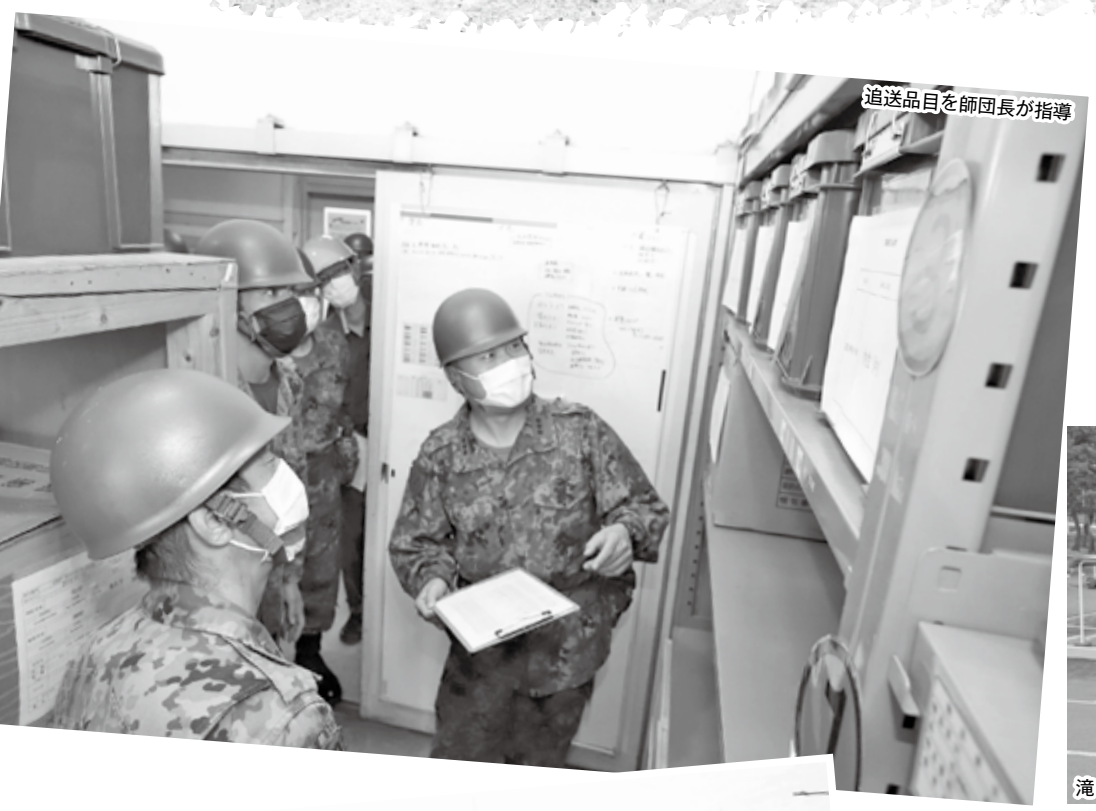
機動展開等訓練においては、各中隊及び連隊本部にて梯隊を組み、9月下旬先発隊が駐屯地を出発し、各梯隊は行進計画に基づき、順次駐屯地を出発、それぞれの前進状況を連隊長が掌握しつつ前進した。操縦手及び車長は相互に連携を図り、安全かつ確実な車両行進により、大矢野原演習場に部隊を前進させた。

9月26日(日)大矢野原演習場到着後、各中隊は連隊計画にて実施される遭遇戦及び重迫中隊連携訓練の現地偵察及び戦闘準備を行い、じ後の訓練に備えた。

9月29日(水)0700遭遇戦を開始、交戦訓練装置(バトラー)を使用した統裁で、中隊トーナメント方式で実施された。大矢野原演習場は起伏の激しい演習場で、各中隊は偵察に基づき上り下りの利点欠点を考慮し作戦計画をたて、訓練開始当初より双方果敢に交戦するなど、熱戦を繰り広げ1800第3中隊の勝利で幕を閉じた。遭遇戦においては、各級指揮官の適宜の状況判断、小部隊の軽快な運用における能力の向上を得ることが出来た。

重迫中隊においては、観測手と情報小隊が目標情報の収集に係る連携を目的とした訓練を実施し、相互のノウハウを共有して、相互理解を深めることができた。また、小隊訓練を実施し、陣地進入から射撃、陣地変換までの一連の動作を演練し、練度の向上を図った。

連隊は9月30日現地における訓練を終了し、逆経路で神町に向かい前進を開始して、全部隊が無事に駐屯地に到着し、任務を完遂した。



追送品目を師団長が指導

滝ヶ原駐屯地で給油

福岡駐屯地を経由

姫路駐屯地を経由